

	<h1>藤沢中だより</h1> <p>平成30年学力向上特別号 深谷市立藤沢中学校 電話 571-0742 生徒数284名</p>	学校教育目標 確かな学力の向上と 健やかな心身の育成 ☆自ら学ぶ生徒 【知】 ☆心豊かな生徒 【徳】 ☆たくましい生徒 【体】

「全国学力調査」は、学力の定着度合いを知る調査です。「県学力調査」は、学年ごとに学力の伸びを知るための調査となっています。今年度の調査結果を受けて、本校の学力向上の課題解決に向けての取組と改善策を掲載しました。今後も生徒たちの学力向上の取組を推進してまいります。

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果(藤沢中学校)

平均正答率

(単位%)

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
藤沢中	66	51	57	35	53
埼玉県 (公立)	75	61	65	47	65
全国 (公立)	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

課題への取組と改善

本校の生徒は、「朝食を食べる」「朝同じ時間に起きる」など基本的な生活習慣は全国平均を上回っており、規則正しい生活習慣が身に付いています。また、学習習慣においては、「予習復習をすること」や「学校以外で1日1時間以上勉強する H29:69.4%→H30:77.9%」などの項目で全国を上回っており、「勉強をする」という習慣は身に付いてきています。

また、生活習慣に関する質問より「就寝時間」について、就寝時刻が遅くなっている生徒が見られます。改善を図ることで、さらに生活リズムが安定し、学習習慣の定着や学力の向上につなげることができると考えます。

本校の生徒は「自分で計画を立てて勉強している」ことを苦手としています。学力の向上につなげていくためには、「学習の見通しの立て方」を各教科で統一して指導することや、「家庭学習の仕方」を丁寧に指導していくことを実行していきます。各教科の学習の見通しを立てるために、「本時の目標」を明確にする必要があります。一時間の中で到達目標をはっきりとさせる授業を行うこと、板書用の掲示物を統一することで、授業の流れを「見える化」をしていきます。そして小テストを定期的に行い、基礎プリントを活用した反復学習を充実させて、基礎学力の定着とさらなる学力向上につなげていきます。

本校生徒の課題を踏まえて、これからの指導の改善を図り、具体的に示した手立てを継続して取り組み、来年度に向けての学力向上につなげられるように尽力していきます。

平成30年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(藤沢中学校)

平均正答率

(単位%)

課題への取組と改善策

教科	国語			数学			英語	
	中1	中2	中3	中1	中2	中3	中2	中3
藤沢中	53.3	51.4	53.3	56.5	43.8	47.7	56.5	45.9
埼玉県	55.2	55.6	61.7	58.1	51.0	59.1	65.4	58.5

学力の伸びを分析すると、本校の生徒は、中間層の伸びに課題がみられます。今後の学習活動で、これまでの指導方法に加えて、中間層に対する指導を手厚く行うことで、さらなる学力の向上が見込めます。そのために、普段の授業で具体的な活用場面を取り上げ、必要感や意欲の向上につなげます。

また、基礎的学習内容の理解を深めるため個々の生徒の力に合わせた学習プリント等を積極的に提供していきます。併せて、低位層の生徒には学習の習慣化を図り、ワークやプリント学習などを行い、家庭学習へとつなげ、基礎学力の定着を図ります。中間層・上位層の生徒に対しては、授業でねらいが分かるように掲示し、見通しを立てられるようにします。学習の計画を立てる力をつけ、授業の中で思考させる場面の設定を行い、自ら考える力を高めていきます。一人一人の生徒が主体的に学習に向かうことができるよう指導方法を工夫し、見通しを持ち思考力を高める授業を実践します。

質問用紙から、学校生活に対して充実を感じている生徒が多く見られ、「予習復習をしている」生徒が多く、学習習慣が身に付いてきていることがわかりました。下位層には基礎学力の確実な定着につなげることで、中位層・上位層は、思考する内容の学習に取り組ませることで更なる学力の向上を図ります。

学習規律の定着を図り、学習活動や学校生活を通して、自尊感情を高め、学力を向上させるために、「基本的な学習」の積み重ねを行い、「できた」を経験させさらに、学校行事、各教科で語り合う場面を意図的に設定することで、所属感や自己有用感を高められるようにしていきます。